Vol. 39, February, 2014

ＡＩ通信

Atami association for International interchange

熱海国際交流協会

←南三陸町にあたみ桜を植えてきました。

第一小学校のエンゼル・クラブへ国際理解講座の出前を実施。ルワンダのお話を伺いました。 →

←姉妹都市カスカイスのご縁で、ポルトガルのファド・コンサートをしました！　とても楽しく魅力的な演奏でした。

インターナショナル・イヤー・エンド・パーティ 2013/12/15

初めまして。釣り好きの主人に連れられ、熱海住まい 20 年、ピアノ弾き語りとダンスが大好きな主婦です。どうぞよろしくお願いします。先月のインターナショナル・パーティの余韻覚めやらぬまま、年末年始の忙中閑ありとばかりに、私の今までの国際交流を振り返ってみることにしました。

私と協会との接点は日本語講師のボランティア活動でした。今から約 20 年前のことです。熱海を永住の地と決めた証として何か私にできることは、と考えての選択でした。ところが教えるどころか教わることばかり…。日本語の表現の多種多様さと日本文化の言語の奥深さに自己の「無知の知」を知らされることしきり。それでも何か日本文化を伝えたくて、雛祭りにちらし寿司を一緒に作ったり、裏千家のお手前でお茶会の真似事をしてみたり、充実の時間が流れました。そんな思い出をアルバムに閉じ込めたままあっという間に時が過ぎ、再び縁がつながって、パーティのお手伝いをさせて頂くことになりました。

パーティ初参加、しかも準備のお手伝いも初体験。何やら学生時代の文化祭気分で、プレゼントの包装をしたり、会場を点検したり音響機材を運んだり、床や階段の具合を確かめたり…仲間と意見交換しながら進める作業は活力になりました。

当日は予想外に大勢の方々（約 150 人の新記録！）が参加され、私も歌にダンスにボランティアを忘れ、賑やかなひと時を楽しみました。ちょっとはしゃぎすぎたかも…？　楽しみのひとつはビュッフェ軽食タイム。お寿司やおでん、パエリャやチョコレートケーキ、サンドウィッチなどおいしい料理を皆で分け合って、自然と笑みがこぼれます。巻き寿司が大好きな私は、子どもたちに分けてもらったりして…ハハハ、これも交流かな？ ↘

インターナショナル・パーティでは、大人も子どもも、よく踊りました！　日本語教室生徒のセシリアさんの司会ぶり（スペイン語つき）も、フラダンス・琉球三線・バンドの皆さんの演奏も素晴らしかったし、中国語や韓国語のお教室生徒さんなども多く参加してくださいました。皆さんの協力で実現した手作りのパーティは、大盛り上がりでした。

音楽も日本の琉球民謡、ハワイアン、そしてラテン音楽と国際色がとても豊か！　ダンスも加わり、交流にふさわしいものだったと思います。踊るのが苦手な方々のために、ともに歌える唱歌や歌謡曲、世界の珍しい楽器の演奏などがあれば、さらにパーフェクトだったかも！

諸外国の方々と席を同じくするのは海外旅行でも機会の少ないもの。世界を身近に、気取らずに感じる機会としても有意

義なものだと思います。改めて、いろんな方々とつながり、そしてお世話になってきたんだなあと感じた一夜でした。次回はどんなパーティになるか、今から楽しみです。

ところで、熱海市は日本で真っ先に国際観光温泉文化都市を宣言し、国際交流の舞台としては申し分のない街だと思いませんか？　ただ、異文化や習慣を理解し共感するのは難しく、誤解やすれ違いがつきもの。でもそれらは、日本人同士でも親子でも夫婦でも同じです。富士山と和食が世界遺産に躍り出た上、2020 年のオリンピックでは「おもてなし」がキーワード、日本人としての私の心にはどんな「おもてなし」の言動が宿っているのだろうか？　ふとそんなことを考える時間が増え、改めて国際交流活動がライフワークになることに幸せを感じた年明けでした。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（うまくまとまったかしら？　午年（うま）だからだいじょうぶ？）　　（事業スタッフ　小澤裕子）

小学生国際理解講座「ルワンダを知ろう」2013/11/27

会員の斎藤敏子さんにお誘いを受けて参加させていただきましたが、ルワンダという国名も初めて聞きました。地図で見ると、コンゴの隣のアフリカの片すみに、「片すみ」といえるくらいの小さな国でした。長い間民族紛争が続きましたが現在では平和な日々を取り戻し、緑に溢れ自然も豊かになった様子を、その後テレビでも見ました。

子どもたちもルダシングワ夫妻の説明や実物の義足を見て、ビックリしていましたね。日本は世界中でも平和 No. 1 の国であることを実感しました。　　（大山恭子）

※　ルワンダで義足を作ったり義肢の職人を養成したりしているルダシングワ・真美さんとご主人のガテラさんを講師に迎え、第一小学校の学童「エンゼル・クラブ」の児童を対象に、講座を開きました。小さい頃からの異文化体験が、「違いを認める広い心」に育っていくことを祈ります。真美さんたちの活動については、こちらもご覧ください。http://www.onelove-project.info/

「伊豆の桜を被災地へ　～復興祈念植樹～」2013/11/1-2

11 月 1 日、JHP 三島桜プロジェクトの第三回復興記念植樹に熱海国際交流協会も参加することになり、会員等 25 名が早朝 5 時に熱海を出発しました。車中、桜プロジェクトの代表・山岡修一氏より桜の植樹のきっかけとなったお話、現在の南三陸町の様子など詳細な説明があり、参加者一同熱心に聞き入りました。

午後 2 時近くに最初の視察場所の仙台市若林区荒浜に到着。かつては美しい街並み・家並みだったであろう地は、コンクリートの土台を残すのみの何もない風景と化していました。美しい荒浜海岸はひびの入った護岸のみで、石壁は崩れガードレールはゆがみ、改めて津波の恐ろしさを

川沿いにある大川小学校。川を遡ってきた津波で、学校の周りも何も無く、がらんと寂しい様子でした。

感じました。海岸際に建つ慰霊塔の慈聖観音像前で、全員で黙祷しました。

30 分近くバスに乗り、次に向かったのは石巻市立大川小学校。84 名（うち児童 74 名、教職員 10 名）が津波にのまれ亡くなった学校です。ここには９回もの津波が押し寄せ、とりわけ引く津波が怖かったと聞き言葉を失いました。校庭際に建てられた慰霊塔に、全員深い祈りを捧げました。参加者のお一人が、この日のために折った小さな小さなビンの中に入った千羽鶴を捧げました。

初日最後に訪れた場所は、途中で見た骨組みだけのビル――南三陸町防災対策庁舎です。女子職員が自分の命を懸けて広報無線で避難を呼びかけたという建物。職員含め 43 名が亡くなり、助かったのは 11 名のみでした。この防災庁舎も取り壊しが決定し、私達が訪問した翌日の 11 月２日には最後の慰霊祭が行なわれるとのことでした。この災害で亡くなった全ての方々を思い、黙祷。ホテルに向かうバスの車窓を見ながら、ガレキだけは撤去されたがまだまだ復興には時間がかかりそうで、暗くなる景色と重なり複雑な悲しみを抱きました。

11 月２日、朝８時にホテルを出発し、神割崎キャンプ場へ。すでに JHP 活動隊、桜プロジェクト、東芝労組ボランティア隊のみなさんが集結していました。今回はあたみ桜 20 本、河津桜 30 本、国立遺伝学研究所の桜３本の計 53 本を植えるとのこと。三島の造園業者・加々見園の加々見社長もボランティアで参加しており、植樹にあたっての注意点等を説明してくださいました。そして桜プロジェクトの皆さんがユンボで穴を掘ったところから桜を植えて行きます。最初の１本は、急斜面にもかかわらず竹内会長が果敢に挑戦。３名のスタッフとともに無事植え終えました。桜は次々と植えられてゆき、20 本の熱海桜全てが８m間隔できれいに植えられました。三島桜プロジェクトの皆さん、植樹にご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

植樹後、南三陸町災害ボランティアセンターを訪問しました。震災後、ボランティアの受け入れ窓口となっているボラセンは、社会福祉協議会事務局長の猪又隆弘氏がセンター長を兼務し、采配を振るわれています。災害後の苦労話、仮設住宅で暮らす方々への思い、ボランティアの皆様への感謝、またこれから始まる本当の復興への遠い道のり、かかる経費等、現実的なお話はとても説得力がありました。「がんばれ仙台！！がんばれ南三陸！！」と言わずにはいられませんでした。

そして私達はさんさん商店街（復興仮設商店街）に向かいます。おいしい食事と手に一杯のおみやげ（これも復興への一助）を買いバスに乗り、一路熱海へと帰ってきました。終わりに、復興を祈るとともに、この桜の木々が被災された方々の心のやすらぎとなってくれることを願い、いつまでも桜の生育を見守っていきたいと思います。

（事業スタッフ　梅　史子）

ファド・コンサート「熱海」2013/9/29

９月 29 日に起雲閣で開かれたポルトガルの伝統音楽、ファドのコンサートに行きました。素晴らしい演奏と唄に感激しました。

昔、ファドが大好きな友人がいて、東京・六本木にあった（今もあるかしら？）小さなライブハウスに何度かファドを聞きに行った事を懐かしく思い出しました。最近は聞くこともなかったのですが、その友人がくれたアマリア・ロドリゲス（ポルトガルの歌手でファドの女王として知られている）のテープを探し出し、久しぶりに聞いてもみました。

起雲閣でのファド・コンサート「熱海」は日本とポルトガル友好 470 周年を記念しての開催ですが、８月には熱海国際交流会が姉妹都市であるポルトガルのカスカイ市から研修生達を迎え国際理解講座を開催し、新聞のニュースもポルトガルに関しての記事で賑わい、ポルトガル・ムードがいっぱいの中でのコンサートでした。演奏された曲はどれも哀愁に満ち心を打ちましたが、高柳卓也さんの歌う唄はさらにロマンが感じられ魅力に溢れていました。ポルトガルギター奏者の月本一史さんと高柳さんのトークも、お二人が何度もポルトガルを訪れ、ポルトガルが、そしてファドが大好きでたまらないという思いが伝わり楽しかったです。私もまだ行ったことのないリスボンでファドを聞いてみたい気持ちになりました。同じ気持ちを持たれた方もいらっしゃったのではないでしょうか。　　（会員　関　和子）

カスカイス　研修生による国際理解講座　2013/8/25

熱海市の姉妹都市・ポルトガルのカスカイス市から、平成 25 年 8 月に 4 人の若い研修生と 2 人の職員が来熱し、日本文化研修を受けました。前号でもお伝えしましたが、日本文化研修の様子を追加で報告します。

8 月 23 日、研修生他 6 人はＭＯＡ美術館を訪問しました。日本人学芸員が館内を案内し、ブラジル人スタッフが通訳を務めました。6 人は館内の様子を非常に興味深そうに見ており、特に建造物としての素晴らしさに魅了されていました。床の大理石の一部はポルトガル製であること、また展示されていた子供の優秀絵画作品の中には彼らの国のものもあるとの説明に、感銘を受けている様でした。徳川家康像の屏風の前でスタッフが「家康を知っているか」と尋ねると、カルロタが「家康は熱海の温泉を好んでいたそうです」と答えていました。アナやパウロ、ジョアンも展示品等について熱心に質問をしており、さすがは熱海についての研究発表会で勝ち抜いただけある、と感じました。

８月 27 日の午後は華道と折り紙体験をしました。浴衣姿の彼らはいつもと少し勝手が違い、どこか動きがぎこちなさそう…日本式フラワー・アレンジメントはポルトガルのそれとは異なる様で戸惑ってはいましたが、各々個性あふれる作品に仕上がりました。ジョアナのアレンジはピンクの花器にピンクと葉物を使ったシンプルでスタイリッシュな出来上がりに。ペドロは帰国したら妻のために作ってサプライズ・プレゼントする、と話していました。

（事業スタッフ　佐藤美紀）

¡ペルーへ楽器を贈ろう!　収集結果

ペルーへ楽器を贈る運動も第８回になりました。今回は、ピアニカ 23、リコーダー80、ハモニカ 11、オカリナ１が集まり、楽器をＡＩスタッフが洗浄しました。ペルー共和国ピウラ県スリャーナ市ブランカ・スサーナ小学校へ寄贈します。少子化の影響でしょうか、年々集まる楽器が少なくなってきました。もし、使われなくなった楽器がご家庭に眠っているようでしたら、ぜひＡＩまでご連絡下さい。

ご協力下さいました熱海高校ボランティア部の皆様、楽器をお寄せ下さいました皆様、ありがとうございました。

（AI　事業スタッフ　井沢頼子）

左：　熱海高校ボランティア部からは、珍しいバスリコーダーもご寄付頂きました。ご協力、ありがとうございました。

右：　前回贈った楽器は、リマの児童施設で使われています。

団体会員紹介　熱海市消防団　様

今回は 120 年の歴史がある熱海市消防団　牧野克昭団長にお話を伺ってきました（インタビュー　事業スタッフ　大竹順子、土屋都＝**以下Ａ**）。

牧野団長（以下Ｍ）：　熱海市消防団は、明治 27 年に「熱海町消防組」として設立されました。平成７年には女性消防部を発足、現在は 12 個分団、399 名の消防団員が在籍しています。全国的にもサラリーマン団員が増加していますが、熱海市においても同様です。サラリーマン団員 70%、自営業 30%です。年齢 18 歳以上 45 歳未満の方が入団でき、定年制はありません。団員としての主な活動は火災出動ですが、普段からそれに備え、火災防御をはじめとした各種訓練・消防操法訓練・機械器具の取扱い訓練を実施しています。毎月１日を「防火デー」に定め各種訓練を実施し、15 日には資機材・機関点検を実施しています。また、観光地・熱海ならではの「花火大会」の警戒は、観光客の安全・安心を守るため、消防本部・消防署と連携を図り、年 20 回行っています。

Ａ：　団員不足などの状況はありますか？

Ｍ：　就業構造の変化により消防団員が減少しています。対策として、県では消防団員を雇用する事業所に対し、税制の優遇制度を行っています。各事業所さんには、ご理解・ご協力を賜り、従業員の方の消防団への入団についてお願いしたいと思います。また、女性消防団員は現在 14 名です。一人暮ら

しの高齢者の巡回では女性団員ならではの細やかな対応が役立っています。女性の入団もぜひともよろしくお願いします。

A：　消防団員をやっていてよかったというエピソードについて教えてください。

M：　私が団長になる前ですが、霜の降りる季節、多賀地区で年少（5-6 歳）の男の子が友達と山で遊んでいて行方不明になりました。消防団員を招集し、懸命な捜索活動を行いましたが、深夜 2 時になっても見つからず捜索活動は打ち切り。翌朝から捜索活動を再開しましたが、冷え込みが厳しく本当に元気でいてくれるのか気持ちが落ち込んだ時でした。「〇〇くーん！」の呼びかけに「はい」という小さな声が聞こえてきました。その瞬間、心から「よかった、よかった。」と嬉しさがこみ上げました。

出初式では女性消防団員も凛々しく行進します。

新年に行なわれる出初式は、消防団の活動を皆さんに知っていただく貴重な機会でもあります

A：　外国籍住民に知って欲しいこと、心がけて欲しいことはありますか？

M：　一般の市民の方も同じですが、災害時のために日頃から避難経路や避難場所を知っておくこと、地域の防災訓練への参加をお願いします。

牧野団長から最後に一言。「消防団というと訓練や出動などで大変だというイメージを持たれるかもしれませんが、5 年間で良いので経験して欲しい。消防・防災を学びながら命を守る大切さと消防団員の仲間との絆を深めることができ、喜びが大きい消防団活動です。」

牧野団長、お忙しい中インタビューにご協力頂きありがとうございました。AI では外国籍住民のための防災教室を行っています。外国の出身者や観光客への消防啓発活動など、互いに協力できる分野もありそうですので今後ともよろしくお願い致します。

２月～３月にかけて、当協会では以下の行事が予定されています。詳しくは事務局（連絡先は最終ページに掲載）へお問い合わせください。

ペルー料理教室

2/22（土）午前 10 時～　いきいきプラザ 4 階調理実習室にて。ペルー風チキン＆ライス、ジャガイモのチーズソース、デザート（予定）、講師は西岡ルイサさん

外国籍市民のための防災教室

３月実施予定。やさしい日本語で、地震などの災害に備える方法をお伝えします。

市内の外国籍住民の数は336人です

2013.12.31 現在

1	中国	88 人
2	韓国・北朝鮮	86 人
3	フィリピン	60 人
4	ブラジル	26 人
5	アメリカ合衆国	15 人
6	ペルー	9 人
7	台湾、タイ	各６人
9	オーストラリア	5 人
10	カナダ、ドイツ、メキシコ、ベトナム	各３人
人数がそれ以下の国の計		23 人

10 月に開講した中国語教室。

発行：　熱海国際交流協会
熱海市中央町１番１号　熱海市教育委員会生涯学習課内（第２庁舎２階）
電話 0557-86-6233
E メール kokusai@atami-ai.jp
ホームページ　http://atami-ai.jp

当協会では会員を募集しています。熱海に住む外国籍住民や姉妹都市の方々との交流に興味のある方、国際支援に関心のある方など、上記の事務局までお問い合わせください。

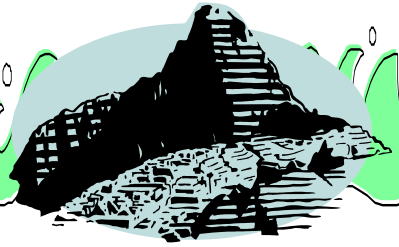
～行ってみたらペルーはこんなところ～

妻がペルー人だったので、親戚を訪ねるため何度かペルーに行きました。成田発、ロサンゼルスまで空路 14 時間。さらにペルーの首都リマまで 11 時間かかります。リマ空港から親戚の家まではタクシーで 30 分。家は高層マンションで日本と変わりません。主な交通手段は自動車、バスなど。道路はとても立派できれいですが、交通渋滞と排気ガスの改善については課題だと思います。

そこから第3の都市トルフィーヨまで、夜行長距離バスの旅。約 500 キロの移動は、昼間は暑さのため不向きです。美しいインカ文明の遺跡など、名所旧跡のたくさんある歴史の街で、太平洋に面した海辺にあります。

さらに移動すること約 600 キロ、人気のビーチがあるリゾート都市・ピウラに到着。スーパー・メルカドと言われる大きな市場があります。住民は貧富の差があり、マンションや戸建ての住居は大半が貧しく質素。家々は防犯上堅固に作られており、中に入ってしまえば玄関のスペースもなく、間取りが区切られておらずにオープンです。

さて、親戚を訪問すると特別な行事にあたることもあります。誕生日はケーキと七面鳥で祝うのが定番のようです。流行歌に合わせて皆で踊ります。時にはフォーマルにドレスアップして友達を招待します。

クリスマスには、12 月 24 日の 24 時にカトリック教会でミサを受け、「おめでとう」の挨拶を交わします。そして午前3時ごろ、家族一緒に七面鳥やパネトン（フルーツケーキ）などをチョコラティ（ミルクココア）でいただき、心身を癒します。

ペルーで日常的によく食べる料理をご紹介しましょう。セビチェはマリネした魚の入ったカルパッチョのような一品、メネストラはベーコン入りの煮豆です。ポジョ・デ・アブラサは炭火で鳥を丸焼きにしたもの。どれもとてもおいしいですよ。アンデス山脈によって育まれた様々な食材を用いて、先住民族やスペイン人、日本人を含むその他さまざまな移民の影響を受けて発達したペルー料理は、世界有数の偉大な料理だと称する人もおり、最近とても注目を集めています。　（高橋　正）